

第39期(2014年3月期) 決算説明会

2014年5月16日

JFX200-2513



JV300-130/160



TS500-1800



Mimaki[®]
株式会社 ミマキエンジニアリング

証券コード: 6638



- ❖ ミマキエンジニアリングご紹介
- ❖ 2014年3月期 連結業績
- ❖ 2015年3月期 連結業績予想
- ❖ 中期戦略
- ❖ ご参考資料

当社の事業内容

■ ミマキエンジニアリングは、

業務用インクジェットプリンタ、カッティングプロッタ、インク等の開発・製造・販売・保守サービスを一貫して行う**開発型企业**です。

■ 業務用インクジェットプリンタとは、

大きさ

- **3.2メートル**幅のロールにプリントできます。
- **四畳半**の広さの板にプリントできます。

何に

- **プラスチック、ガラス、木、布**等に直接プリントできます。

従来

- 従来必要だった版が不要。**イニシャル費用と納期**を大幅削減
- デジタルオンデマンド生産により、**クイックレスポンス⇒在庫削減**

価格

- 100万円台から**1,500万円**ぐらいまで多様。

結局

- デザインと小ロット対応により100円のモノが500円、2,000円にも高く売ることができます。**付加価値を生み出す**プリンタです。



SWJ-320S
最大プリント幅
=3.2M

JFX500-2131
最大プリントサイズ
=2.1M×3.1M

インクジェット応用技術により

「新しさと違い」を提供する イノベーター

- 積極的な開発投資
- 独自技術、ニュー・コンセプトの製品
- 地域密着型の営業・保守サービス体制
- ユーザーニーズを小回り良く製品化
- **新たな市場と顧客を創出する**

3つの販売市場

Sign Graphics

(SG/サイングラフィックス)

広告看板、ウィンドウグラフィックス、カーラッピングなど街を彩るビジネスで活躍している**当社の主力製品群**で、業界におけるインクジェットの速さと美しさの基準を提案しています。



Industrial Product

(IP/インダストリアルプロダクト)

金属、木材、プラスチックなど多種多様な素材にプリントできるUV硬化インクの特性を活かし、ギフトやノベルティ、工業製品等の製造現場で活躍している製品群です。



Textile & Apparel

(TA/テキスタイル&アパレル)

縫製前の生地(テキスタイル)やTシャツ等の既製服(アパレル)など布地にプリントでき、版不要だからこそ可能な小ロット多品種生産で**新たな捺染ビジネスを切り開く製品群**です。



SG

IP

TA

保守部品ほか

39期(14/3)
売上比率

54.9%

25.0%

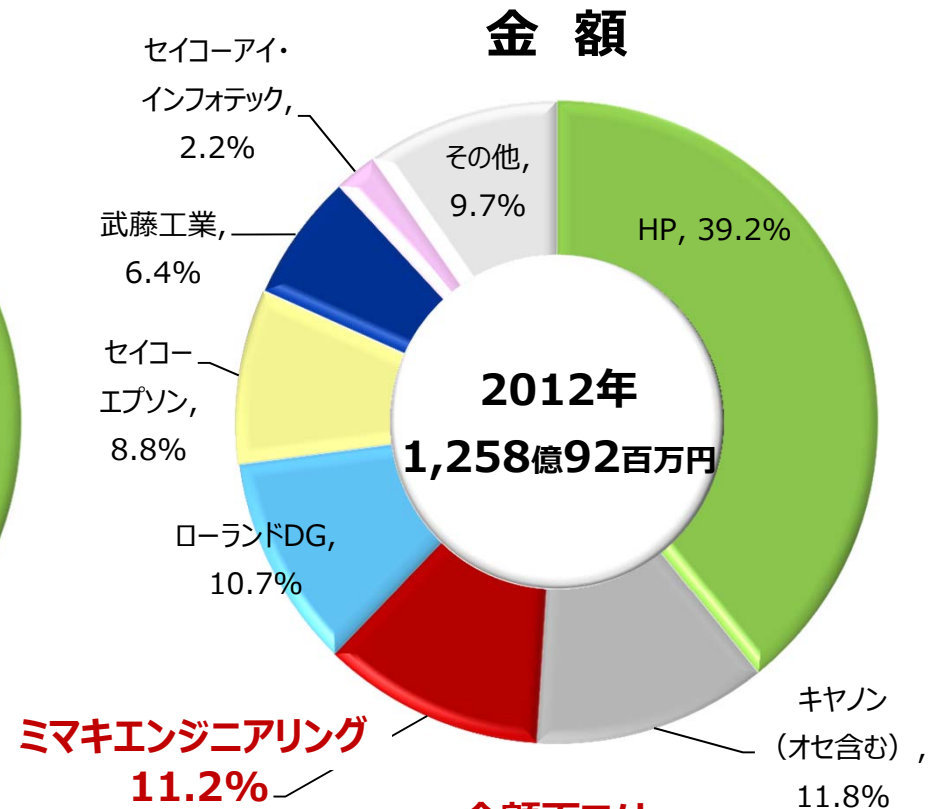
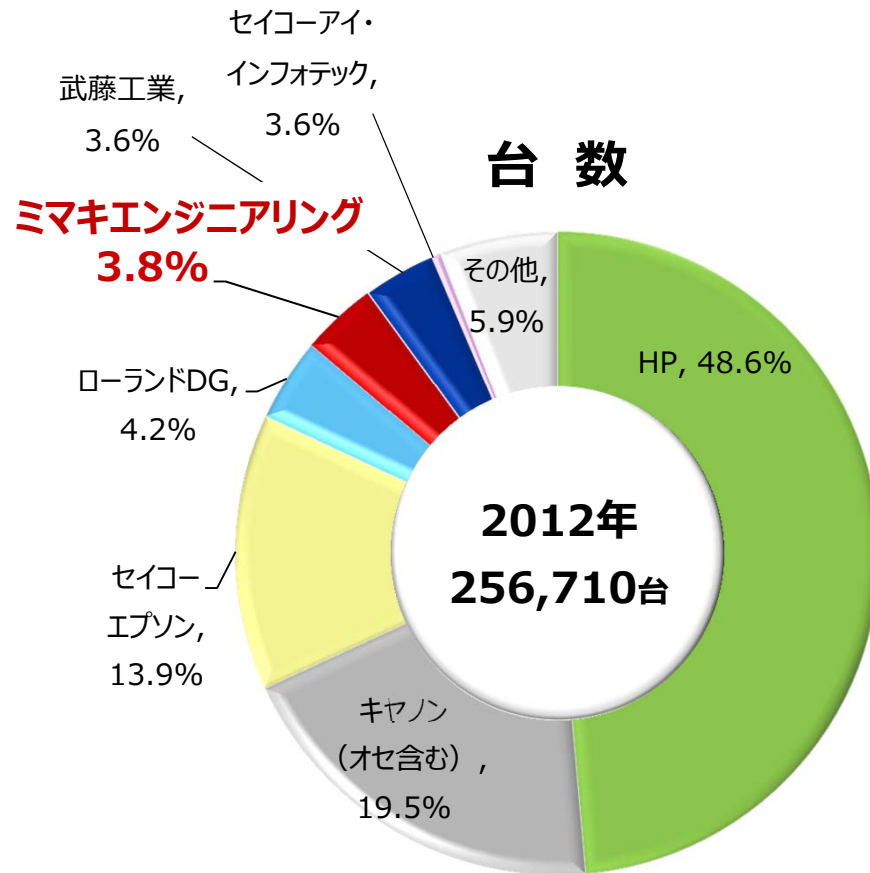
11.0%

9.1%

グローバル市場における当社シェア

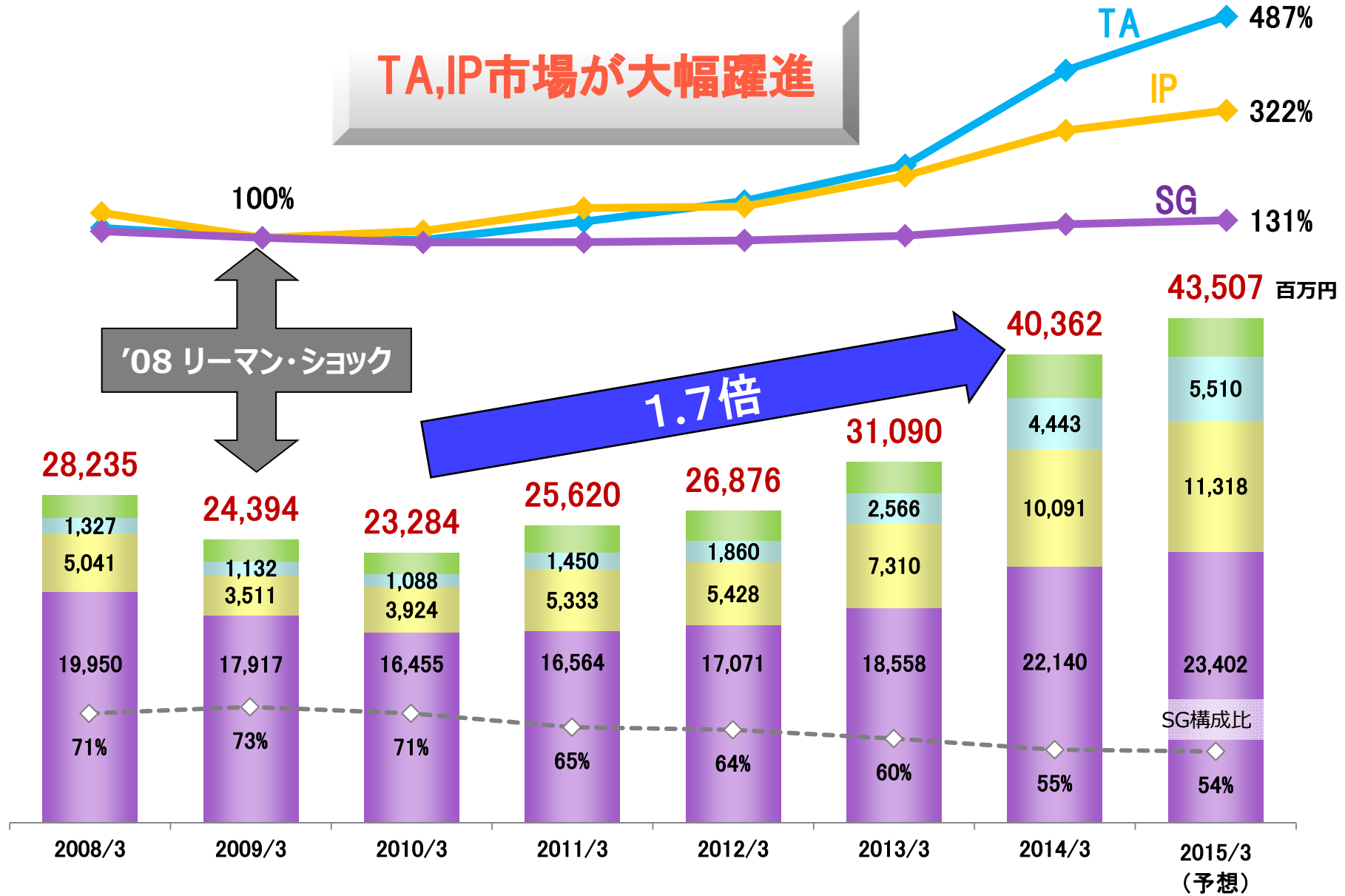
大判インクジェットプリンタの世界市場

出所：2013プリンタ市場の全貌（中日社）
※ 屋内用途や校正用途の水性インクジェットプリンタを含む



金額面では
世界第3位

市場別売上高推移

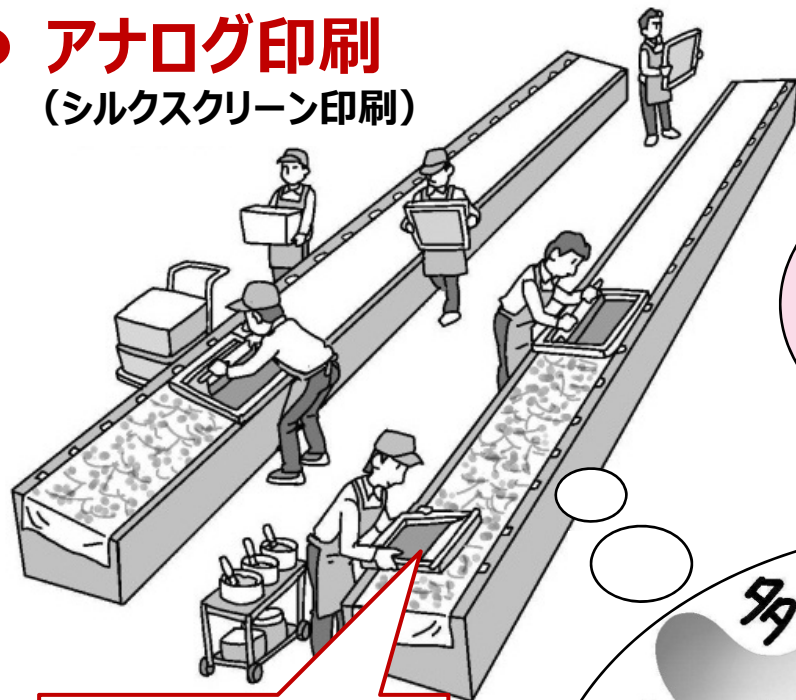


SG市場
にならぶ

IP、TA市場を第2、第3の柱へ — デジタル・オンデマンド生産の成長性 —

ものづくり現場の変化

● アナログ印刷 (シルクスクリーン印刷)



消費者ニーズ

- デザインの個性化
- 流行サイクルの短期化

⇒ **ファストファッション**



多品種・小ロット

在庫
リスク

ニーズが
読めない!

小ロット



環境ニーズ

- 廃インク水質汚染
- 洗浄水使用量

デジタル印刷が伸びる理由

● デジタル印刷

✓ クイックレスポンス

注文数だけプリント
白モノ在庫を即日仕上げ
在庫リスク大幅低減

✓ 省スペース

消費地生産が可能



✓ 版レス

イニシャルコストかからない
小ロット対応

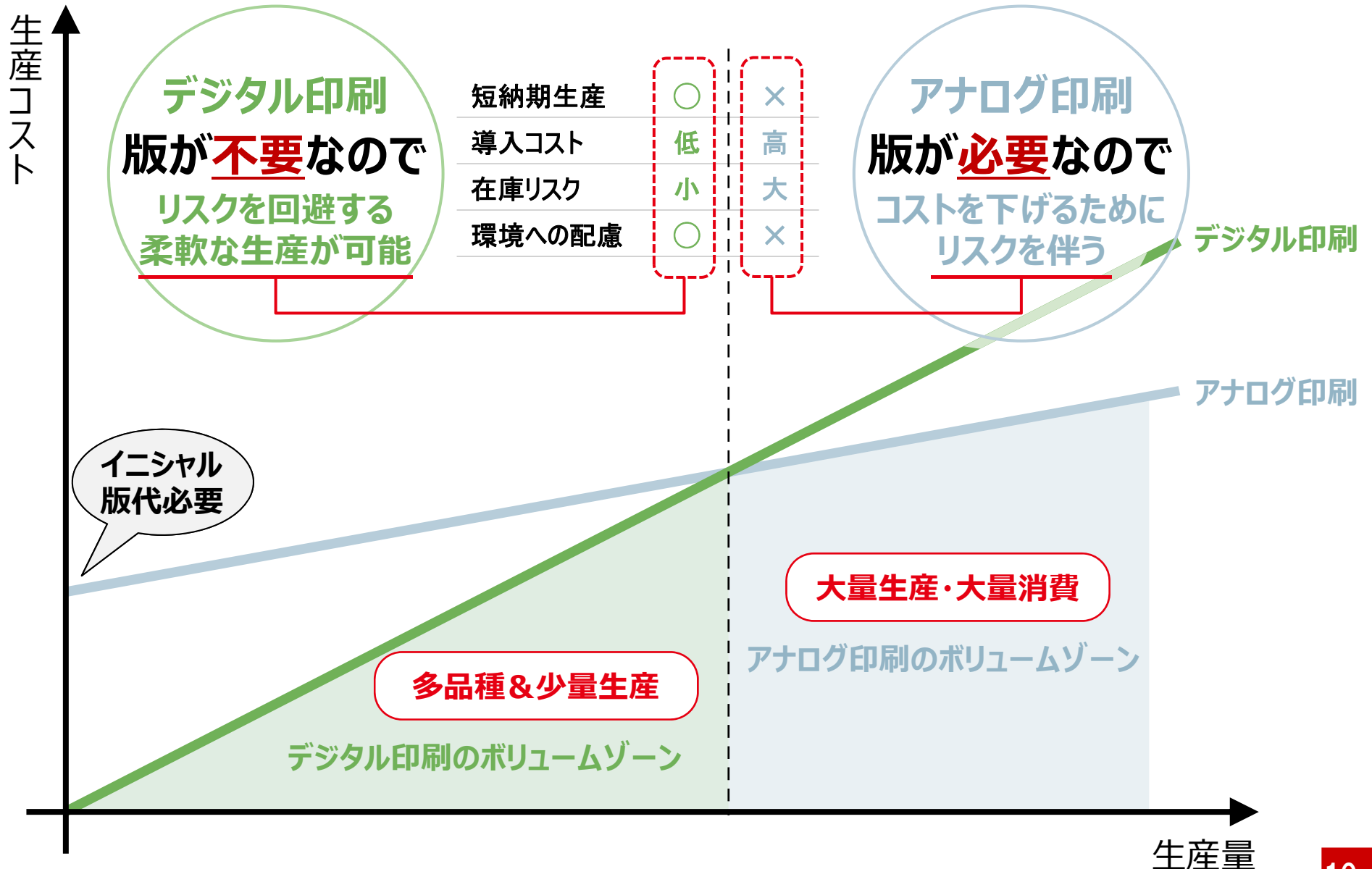
✓ 多色表現

色数制限のない色彩表現

✓ エコロジー

絵柄部分だけにインク吐出
版を洗う廃インクなし
省電力

デジタル印刷とアナログ印刷の違い



紙以外の印刷市場は、規模は大きいもののデジタル化比率は低い

工業印刷市場



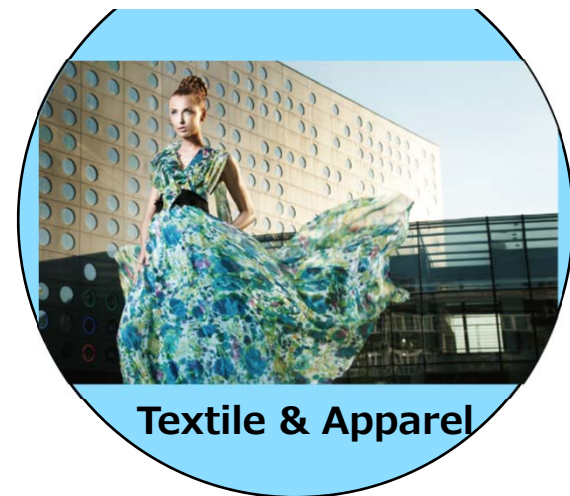
Industrial Products

オーダーグッズ・ビジネス市場



Industrial Products

ファスト・ファッション市場



Textile & Apparel

潜在市場は大きく、
当社事業の“伸びしろ”も大きく残されている！！

- ❖ ミマキエンジニアリングご紹介
- ❖ **2014年3月期 連結業績**
- ❖ 2015年3月期 連結業績予想
- ❖ 中期戦略
- ❖ ご参考資料

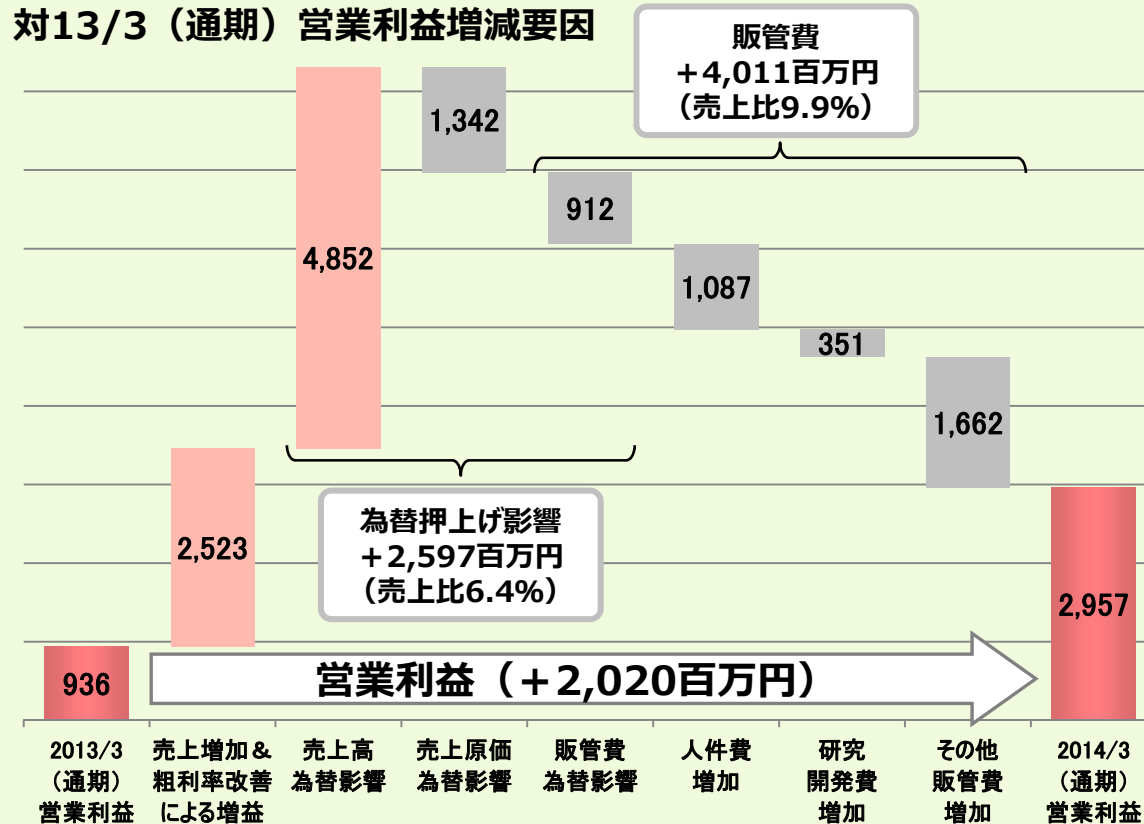
連結業績ハイライト

産業用途のIP、TA市場が躍進し、**売上高・営業利益は過去最高**を更新

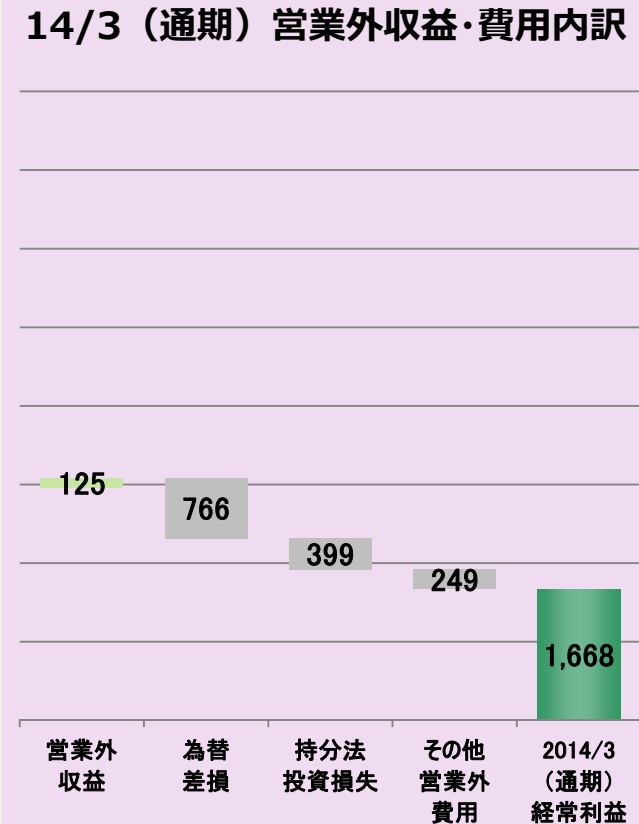
(百万円)	2013年 3月期	売上比	2014年 3月期	売上比	増減額	増減率
売上高	31,090	-	40,362	-	9,272	29.8%
売上原価	18,276	58.8%	21,516	53.3%	3,240	17.7%
売上総利益	12,813	41.2%	18,846	46.7%	6,032	47.1%
販売費及び一般管理費	11,877	38.2%	15,888	39.4%	4,011	33.8%
営業利益	936	3.0%	2,957	7.3%	2,020	215.7%
営業外収益	82	0.3%	125	0.3%	43	52.3%
営業外費用	939	3.0%	1,414	3.5%	475	50.6%
経常利益	79	0.3%	1,668	4.1%	1,588	1994.2%
当期純利益	132	0.4%	884	2.2%	751	566.1%
1株あたり当期純利益		9.95 円		66.04 円		
1株あたり配当金		7.00 円		7.00 円		
為替レート (期中平均)	米ドル	83.11 円		100.24 円		
	ユーロ	107.15 円		134.38 円		

利益増減要因 2014年3月期(通期実績)

対13/3 (通期) 営業利益増減要因



14/3 (通期) 営業外収益・費用内訳



(百万円)

(百万円)

販売費及び一般管理費

- 連結人員が1,065名→1,202名と増加し、人件費も増加
- 要素技術の開発強化のため、研究開発費が351百万円増加
- その他販管費として、主に販売推進費が280百万円、運搬費が197百万円、製品補修費が243百万円、賃借料が317百万円それぞれ増加

為替差損

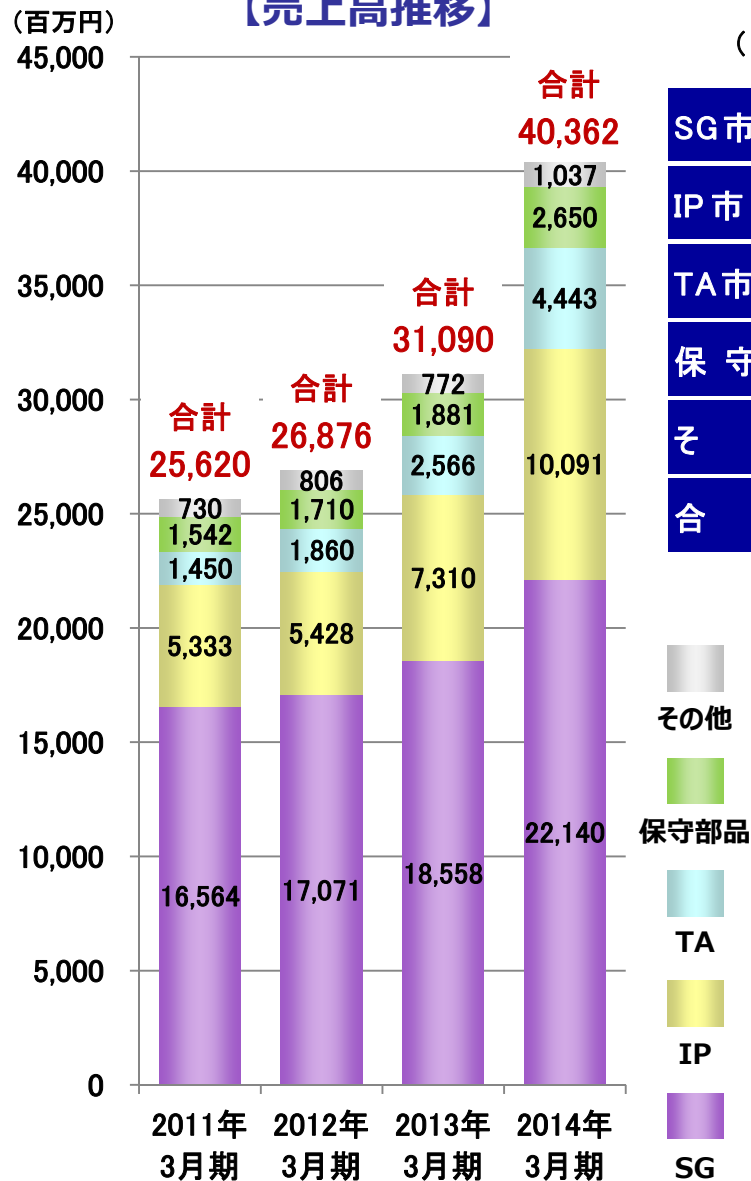
- 為替予約と実勢レートの差異及び新興国通貨の下落によるもの

持分法投資損失

- インド販売子会社の事業損失及び回収困難な債権に対して計上

機種群別売上高

【売上高推移】



(百万円)	2013年 3月期	構成比	2014年 3月期	構成比	増減額	増減率
SG市場向け	18,558	59.7%	22,140	54.9%	3,582	19.3%
IP市場向け	7,310	23.5%	10,091	25.0%	2,781	38.0%
TA市場向け	2,566	8.3%	4,443	11.0%	1,876	73.1%
保守部品	1,881	6.0%	2,650	6.5%	768	40.8%
その他	772	2.5%	1,037	2.6%	264	34.3%
合計	31,090	100.0%	40,362	100.0%	9,272	29.8%

SG市場向け

- 主力製品であるJV33シリーズ等の既存エントリーモデルが堅調に推移
- 新興国市場向けのSWJ-320が、3.2M幅の大型サイズ、価格と画質のバランスで独自ポジションを確保

IP市場向け

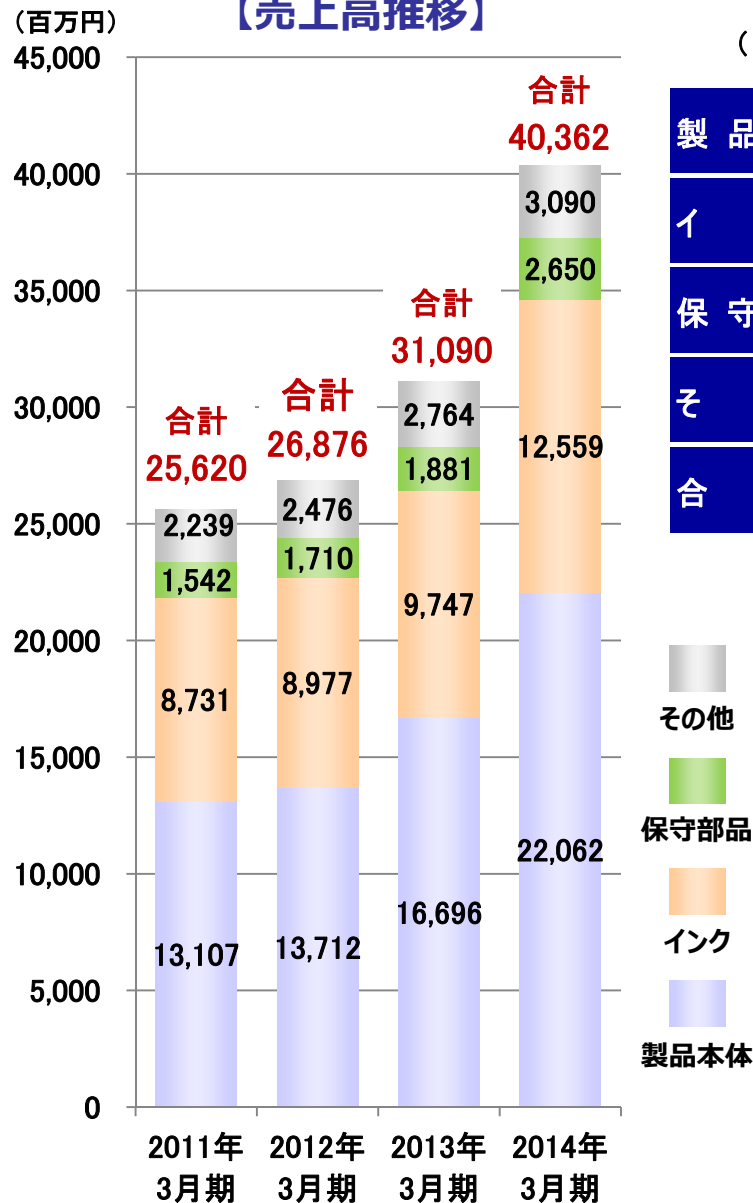
- 主力製品であるUJF-3042のプリントサイズを2倍に広げ、より精細な画質を実現した上位モデルUJF-6042の売れ行きが好調
- 高速&高画質のハイエンドモデルJFX500-2131も売上増加に貢献

TA市場向け

- プリント後の洗い工程が不要な昇華プリント方式が、環境面、コスト面の観点から大きく伸長
→エントリーモデル、ハイエンドモデルともに好調に推移

品目別売上高

【売上高推移】



(百万円)	2013年 3月期	構成比	2014年 3月期	構成比	増減額	増減率
製品本体	16,696	53.7%	22,062	54.7%	5,366	32.1%
インク	9,747	31.4%	12,559	31.1%	2,811	28.8%
保守部品	1,881	6.0%	2,650	6.5%	768	40.8%
その他	2,764	8.9%	3,090	7.7%	326	11.8%
合計	31,090	100.0%	40,362	100.0%	9,272	29.8%

製品本体

- SG、IP、TAの各市場で順調に拡大

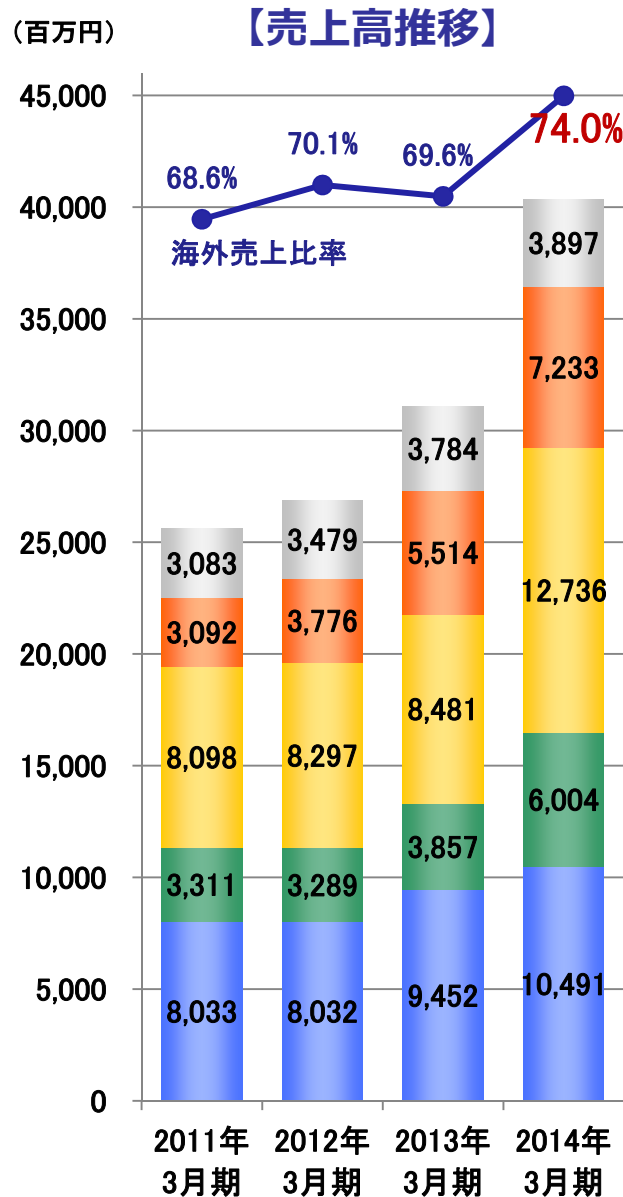
インク

- 製品本体の販売台数を伸ばしたこと等に伴い拡大
- インク消費量の多い製品（500シリーズなど）が売上伸長を牽引

保守部品

- 製品本体の販売台数が伸びたことに伴う拡大
- 500シリーズの本格販売開始に呼応した初期需要でも大きく伸長

エリア別売上高



	(百万円)	2013年 3月期	構成比	2014年 3月期	構成比	増減額	増減率
日 本		9,452	30.4%	10,491	26.0%	1,039	11.0%
北 米		3,857	12.4%	6,004	14.9%	2,146	55.7%
欧 州		8,481	27.3%	12,736	31.5%	4,255	50.2%
ア ジ ア オセアニア		5,514	17.7%	7,233	17.9%	1,718	31.2%
そ の 他		3,784	12.2%	3,897	9.7%	112	3.0%
合 計		31,090	100.0%	40,362	100.0%	9,272	29.8%

日本

- 京都、神戸、四国(高松)に営業拠点を新設して営業体制を強化
- 利益を生み出す活用方法を、実演を通じて修得する講習会を開講

北米

- JV33などのSGIエントリーモデルが大きく伸び、売上も大幅に拡大
- 10月にニュージャージーとテキサスに新拠点を開設し、地域密着型の営業体制を強化することで、シェアのさらなる拡大を目指す

欧州

- UJF-6042、JFX500-2131など、IP市場向けが拡大

アジア・オセアニア

- 新興国の販売子会社による地域密着型営業が奏功し、売上拡大

要約貸借対照表

(百万円)		2013年 3月31日	2014年 3月31日	増減額	増減率
資産の部	現金及び預金	3,563	4,946	1,383	38.8%
	受取手形及び売掛金	5,819	7,042	1,222	21.0%
	たな卸資産	10,477	9,941	△ 536	△ 5.1%
	その他流動資産	2,220	2,150	△ 70	△ 3.2%
	流動資産合計	22,080	24,080	1,999	9.1%
	有形固定資産	5,700	6,266	565	9.9%
	無形固定資産	348	289	△ 58	△ 16.8%
	その他の資産	1,561	1,431	△ 130	△ 8.4%
	固定資産合計	7,610	7,987	376	4.9%
合 計	29,691	32,067	2,375	8.0%	
負債・純資産の部	支払い手形及び買掛金	6,894	6,029	△ 865	△ 12.6%
	短期借入金(※)	8,330	7,023	△ 1,307	△ 15.7%
	その他流動負債	4,547	5,491	943	20.8%
	合 計	19,772	18,544	△ 1,228	△ 6.2%
	長期借入金	2,546	4,766	2,220	87.2%
	その他固定負債	877	877	0	0.0%
	合 計	3,423	5,644	2,220	64.8%
	負債合計	23,196	24,188	991	4.3%
	純資産合計	6,495	7,879	1,384	21.3%
合 計	29,691	32,067	2,375	8.0%	

現金及び預金

- 業容拡大に伴う増加
- 新設海外子会社等 (+421M)

受取手形及び売掛金

- 業容拡大に伴う増加

たな卸資産

- 商品及び製品 (△494M)
- 仕掛品、原材料及び貯蔵品 (△41M)

支払手形及び買掛金

- 前期末の休日要因によるもの
支払手形 (△1,135M)
買掛金 (+270)

短/長期借入金

- 長期借入金が純増加 (+610M)
↑ 用途：八王子不動産取得資金 etc
- 残額は短期→長期切替によるもの

その他流動負債

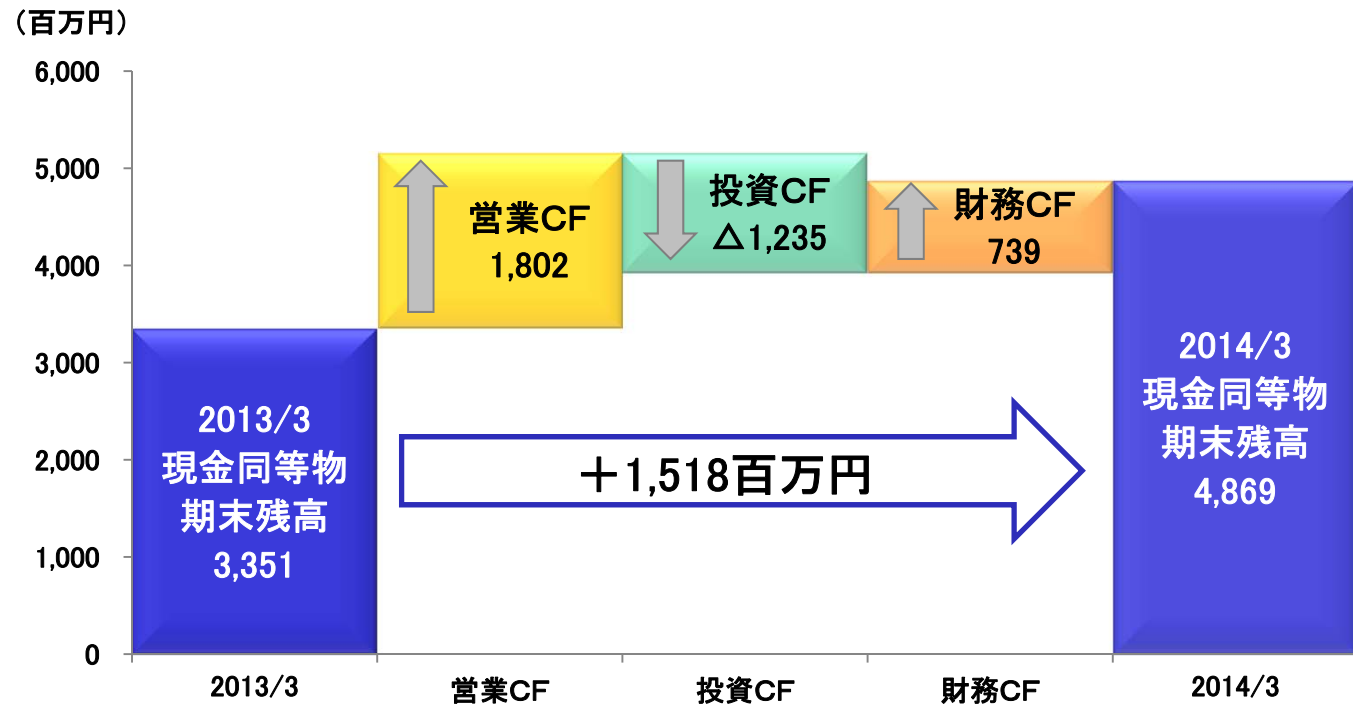
- 未払法人税等 (+480M)
- 製品保証引当金 (+307M)

純資産

- 利益剰余金 (+790M)
- 為替換算調整勘定 (+459M)

(※) 1年内返済予定長期借入金を含む

キャッシュ・フロー



2014年3月期

営業キャッシュフローの状況

EBITDA (※1)	3,483
運転資金増加 (※2)	△ 999
税金、利払い等	△ 682

投資キャッシュフローの状況

有形固定資産増減	△ 1,173
定期預金払い戻し	△ 82
その他	20

財務キャッシュフローの状況

短期借入れ増加	△ 963
長期借入れ増加	1,895
その他	△ 193

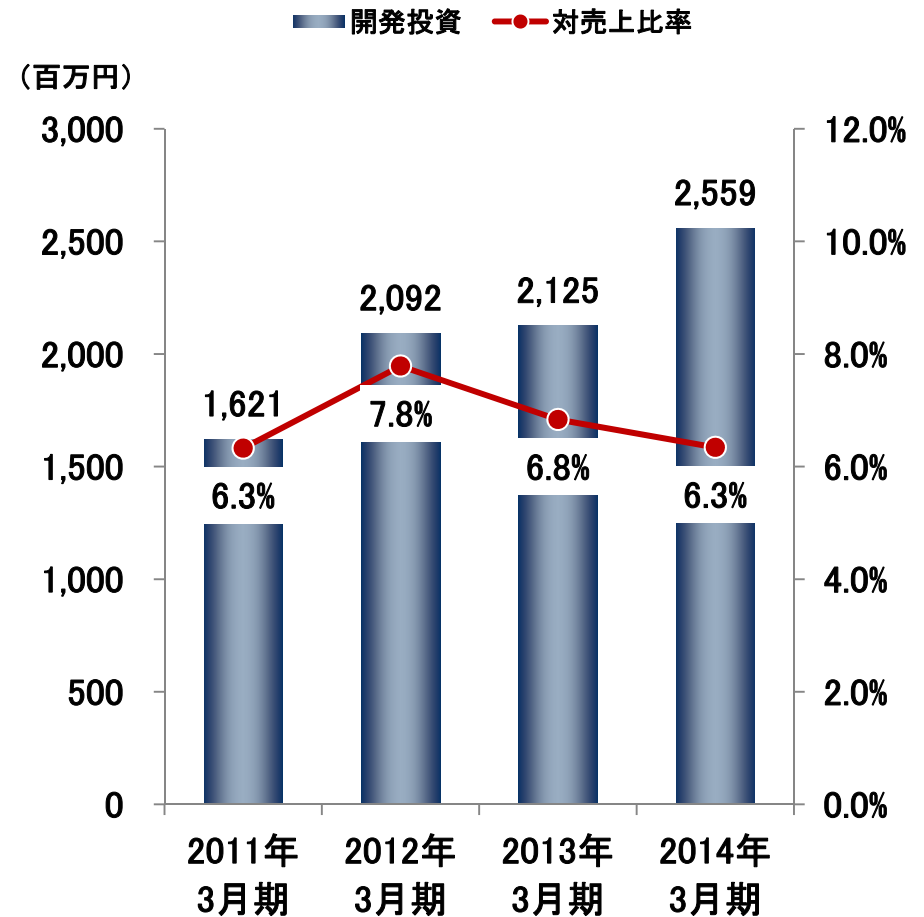
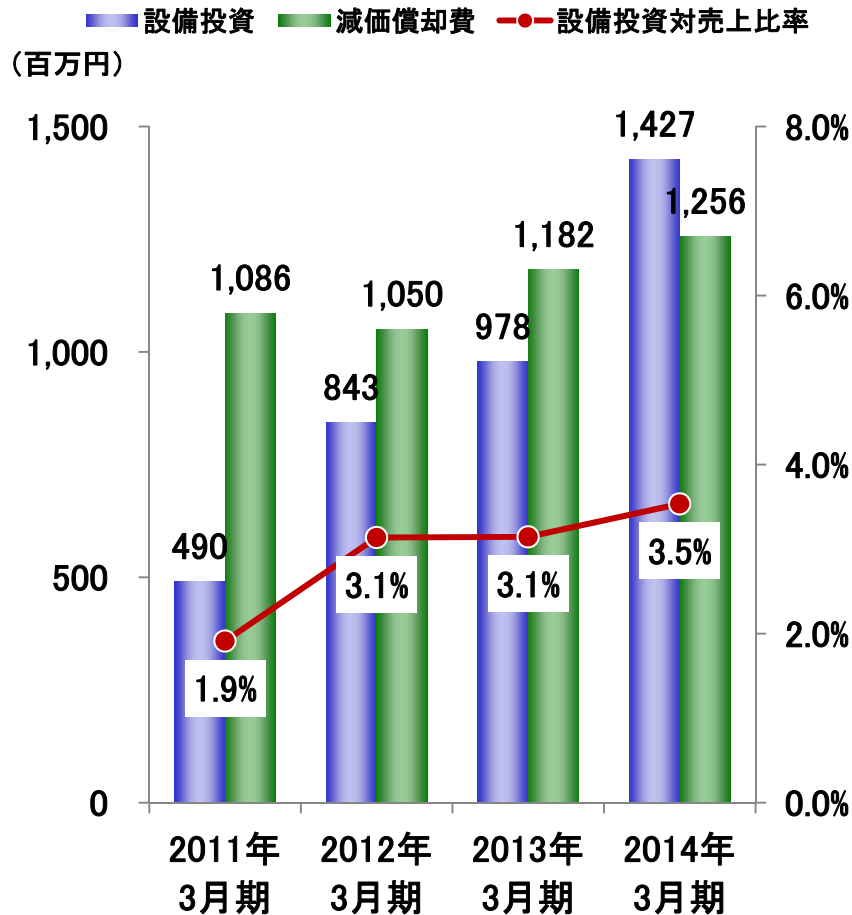
※1 利払前、税払前、償却前の営業利益

※2 前期末休日のため仕入債務△958

設備投資、減価償却、開発投資

【設備投資・減価償却費】

【開発投資】

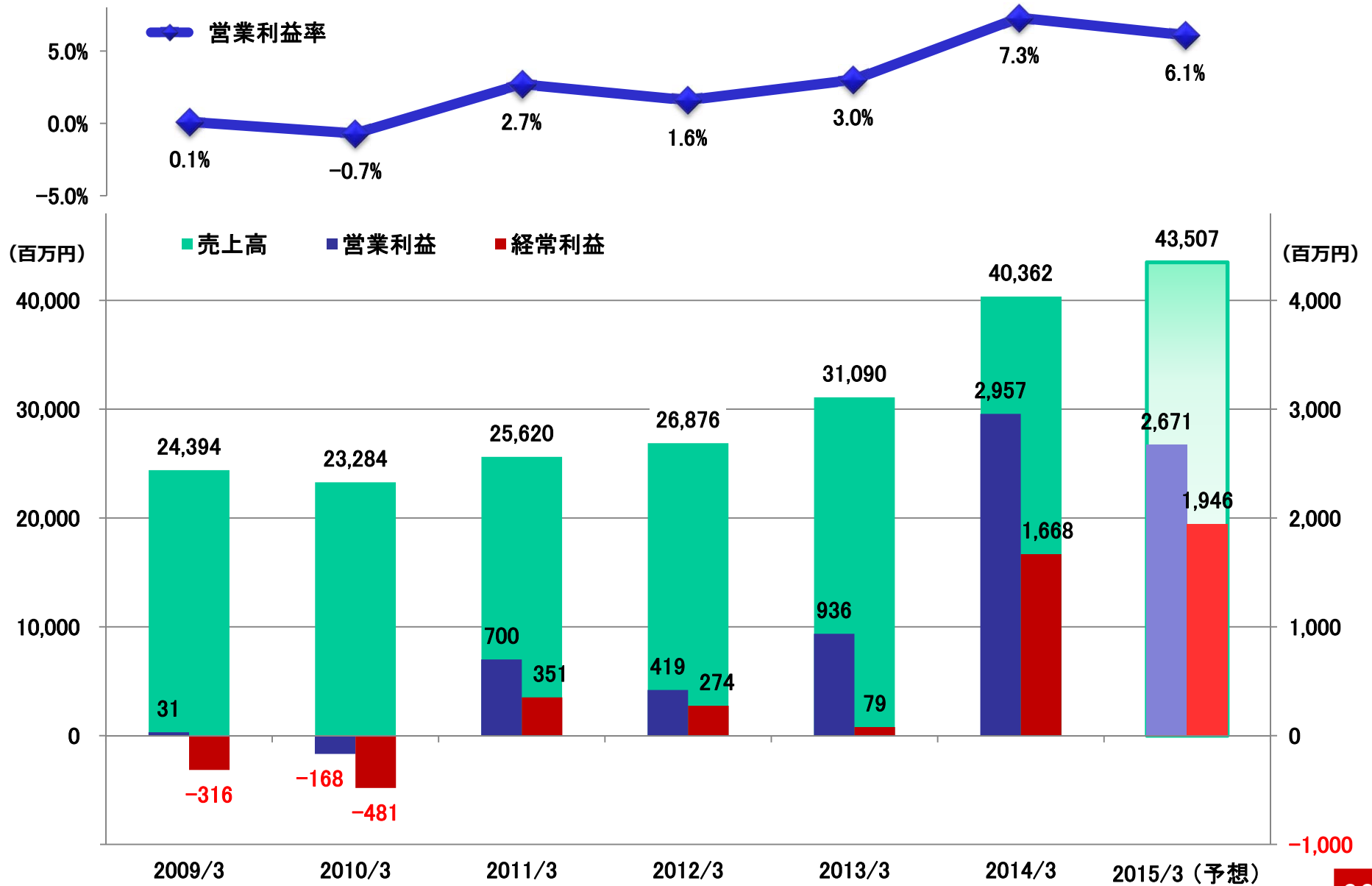


※ 上記の金額は、研究開発活動に係る費用の総額を示すもので、既存製品の改良、応用等に関する費用が含まれております。

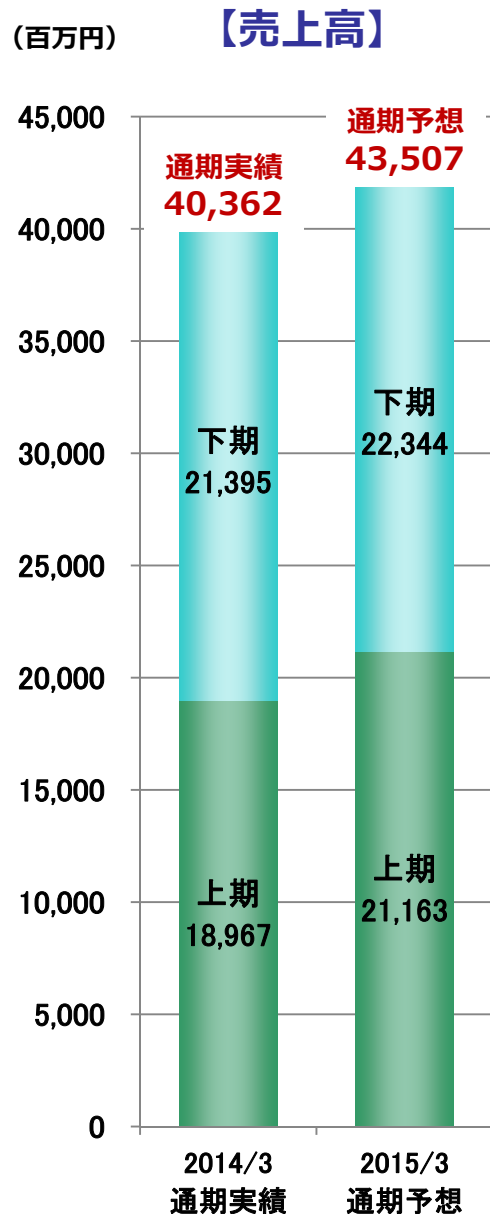
各会計年度の販管費における「研究開発費」は、11/3期749百万円、12/3期824百万円、13/3期894百万円、14/3期1,245百万円です。

- ❖ ミマキエンジニアリングご紹介
- ❖ 2014年3月期 連結業績
- ❖ 2015年3月期 連結業績予想**
- ❖ 中期戦略
- ❖ ご参考資料

連結業績推移



連結業績予想（前年同期比）



	2014/3		2015/3		2014/3		2015/3		前期対比	
	通期実績	売上比	通期予想	売上比	上期予想	下期予想	前期対比		増減額	増減率
							増減額	増減率		
売上高	40,362	-	43,507	-	21,163	22,344	3,144	7.8%		
営業利益	2,957	7.3%	2,671	6.1%	1,331	1,340	△ 286	△ 9.7%		
経常利益	1,668	4.1%	1,946	4.5%	855	1,091	277	16.6%		
当期純利益	884	2.2%	1,390	3.3%	584	806	505	57.2%		

為替レート (円)

米ドル	100.24	-	98.00	-
ユーロ	134.38	-	135.00	-

為替感応度

米ドル	56 百万円
ユーロ	80 百万円

売上高

- SG市場向けの新製品「JV300シリーズ」による新規顧客の獲得&買い替え需要の取り込み
- 14年3月期に増強した国内外の販売・サービス拠点網による積極的な販売促進を展開

営業利益

- 部材費、労務費の上昇による売上原価の増加
- 地域密着型営業体制のグローバル展開を推進するための販売経費の増加
- 業容拡大に向けた人件費の増加 をそれぞれ見込む

経常利益

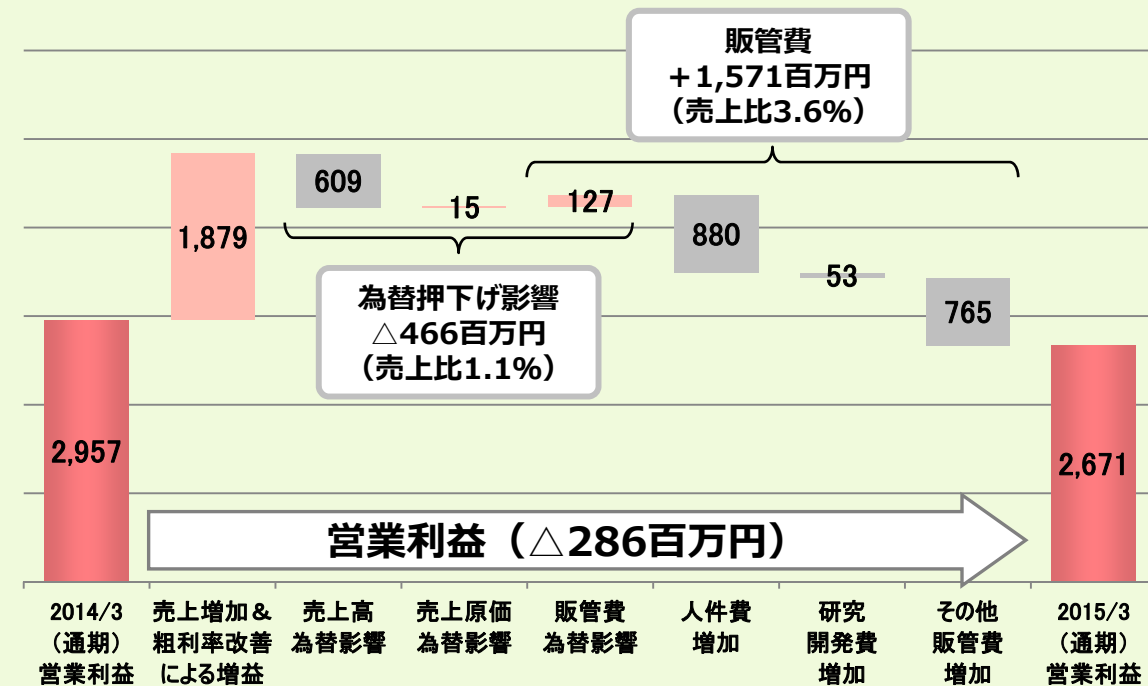
- 米国の金融緩和政策の縮小が継続されることを前提に、新興国通貨の下落に伴う為替差損、持分法投資損失を見込む

↑
為替レートが1円変動することによる営業利益への影響額

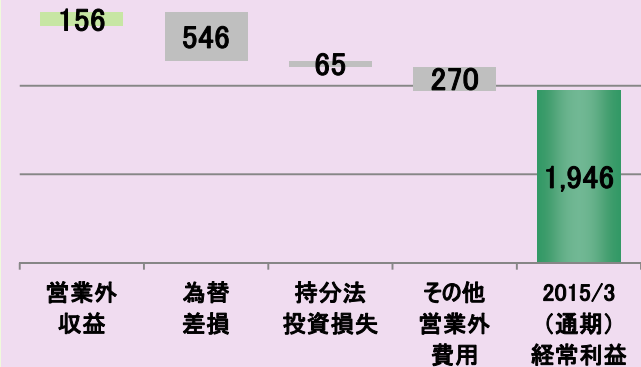
- ・前期実績ベース
- ・12ヶ月換算

利益増減要因 2015年3月期(通期予想)

対14/3 (通期) 営業利益増減要因



15/3 (通期) 営業外収益・費用内訳



(百万円)

(百万円)

為替押下げ影響

- 為替要因を除けば実質増益 (2,671 + 466 = 3,137百万円)

販売費及び一般管理費

- その他販管費として、主に販売推進費377百万円、運搬費155百万円、製品補修費177百万円の増加を見込む

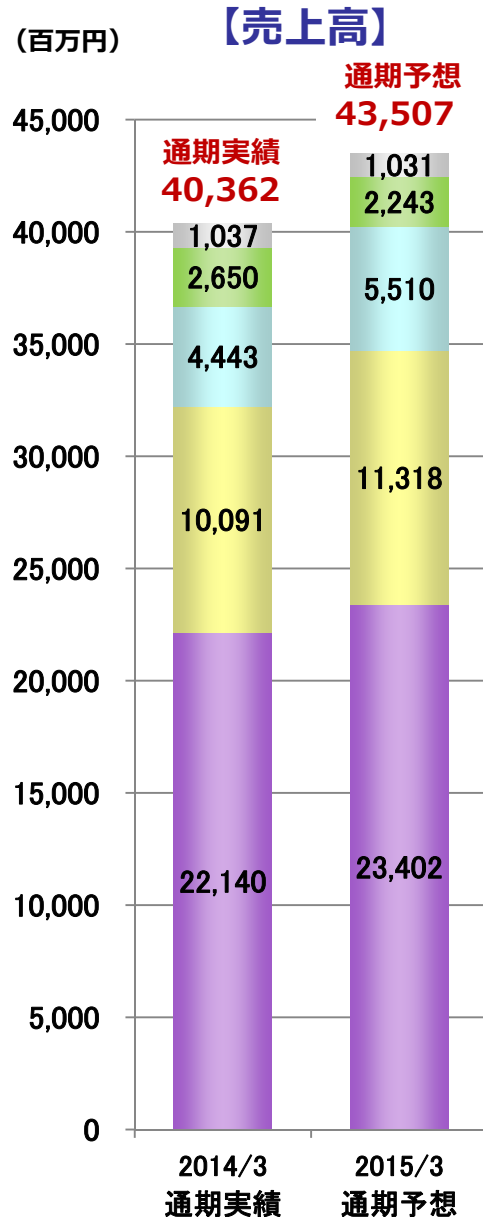
為替差損

- 米国の金融緩和政策の縮小が継続されることを前提に、新興国通貨の下落に伴う損失を見込む

持分法投資損失

- 為替差損と同様の理由により、インドルピーの下落に伴うインド販売子会社の持分法投資損失を見込む

機種群別売上高予想



	2014/3		2015/3				前期対比	
	通期実績	構成比	通期予想	構成比	上期予想	下期予想	前期対比	
							増減額	増減率
SG市場向け	22,140	54.9%	23,402	53.7%	11,452	11,950	1,261	5.7%
IP市場向け	10,091	25.0%	11,318	26.0%	5,532	5,786	1,227	12.2%
TA市場向け	4,443	11.0%	5,510	12.7%	2,545	2,964	1,066	24.0%
保守部品	2,650	6.5%	2,243	5.2%	1,115	1,128	△ 406	△ 15.3%
その他	1,037	2.6%	1,031	2.4%	516	515	△ 5	△ 0.5%
合計	40,362	100.0%	43,507	100.0%	21,162	22,344	3,144	7.8%

SG市場向け

- 新製品「JV300シリーズ」による新規顧客の獲得 & 買い替え需要の取り込み
- 先進国においては、既存ユーザーへのインク売上を下支えに、買い替え需要を確実に取り込むことで、堅調な成長を見込む
- 新興国においては、機能と性能を絞った低価格機種でマーケットシェアを拡大し、先進国以上の成長を見込む

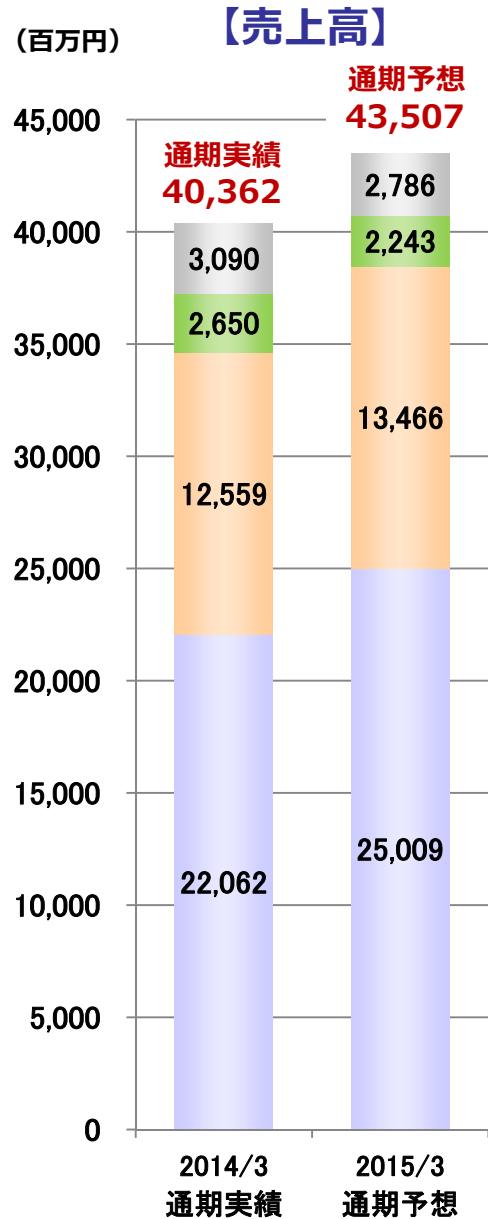
IP市場向け

- 小型機のUJF-3042、UJF-6042の販売促進を継続
- 大型機はエントリーモデル JFX200で品揃えを拡充し、用途別多展開を強化
- 自動車や家電等の工業分野での需要を深耕し、先進国、新興国両方で拡販

TA市場向け

- 高速、上位機種500シリーズの本格販売で、中量生産以上の市場への拡販を強化し、インク販売を中心としたアフタービジネスを拡大

品目別売上高予想



	2014/3		2015/3		上期 予想	下期 予想	前期対比	
	通期 実績	構成比	通期 予想	構成比			増減額	増減率
製品本体	22,062	54.7%	25,009	57.5%	11,934	13,075	2,947	13.4%
インク	12,559	31.1%	13,466	31.0%	6,719	6,747	907	7.2%
保守部品	2,650	6.5%	2,243	5.2%	1,115	1,128	△ 406	△15.3%
その他	3,090	7.7%	2,786	6.3%	1,393	1,392	△ 303	△9.8%
合計	40,362	100.0%	43,507	100.0%	21,162	22,344	3,144	7.8%

製品本体

- SG、IP、TAの各市場での伸びを見込む

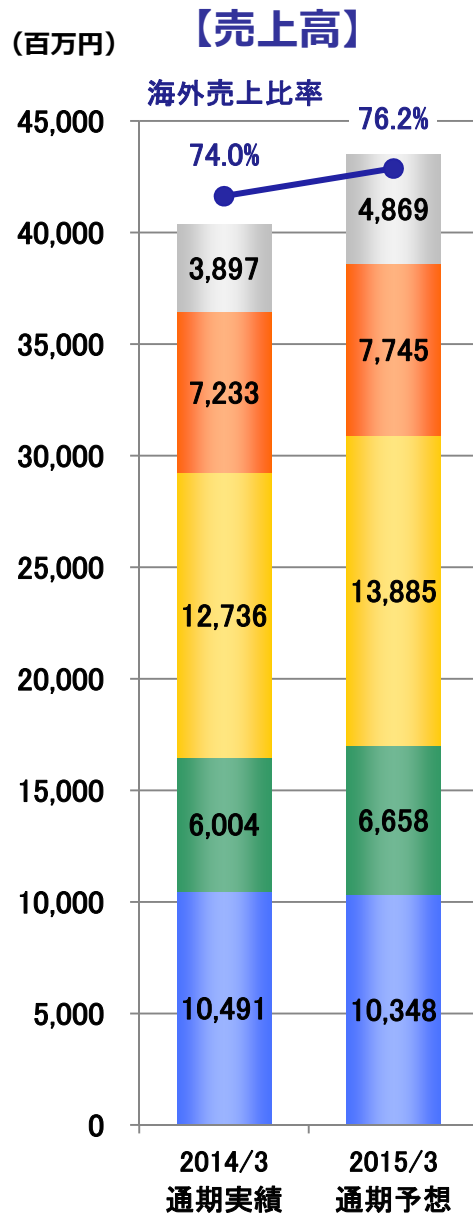
インク

- 新製品の投入効果も含め、製品本体同様の伸びを見込む

保守部品

- 製品本体の売上増加に伴う増加を見込むものの、500シリーズの本格販売開始に呼応した初期需要等で伸びた14年3月期に比べ、減少見込み

エリア別売上高予想



	2014/3		2015/3				前期対比	
	通期実績	構成比	通期予想	構成比	上期予想	下期予想	増減額	増減率
日本	10,491	26.0%	10,348	23.8%	4,895	5,452	△ 143	△1.4%
北米	6,004	14.9%	6,658	15.3%	3,217	3,441	654	10.9%
欧州	12,736	31.5%	13,885	31.9%	6,812	7,072	1,148	9.0%
アジア・オセアニア	7,233	17.9%	7,745	17.8%	3,673	4,071	511	7.1%
その他	3,897	9.7%	4,869	11.2%	2,563	2,306	972	25.0%
合計	40,362	100.0%	43,507	100.0%	21,162	22,344	3,144	7.8%

日本

- 消費増税前の駆け込み需要で押し上げ効果のあった14年3月期に対し、増税後の反動で前年割れを見込む

北米

- 販売拠点を増設したことによる地域密着型営業の推進により、販売チャネル改革

欧州

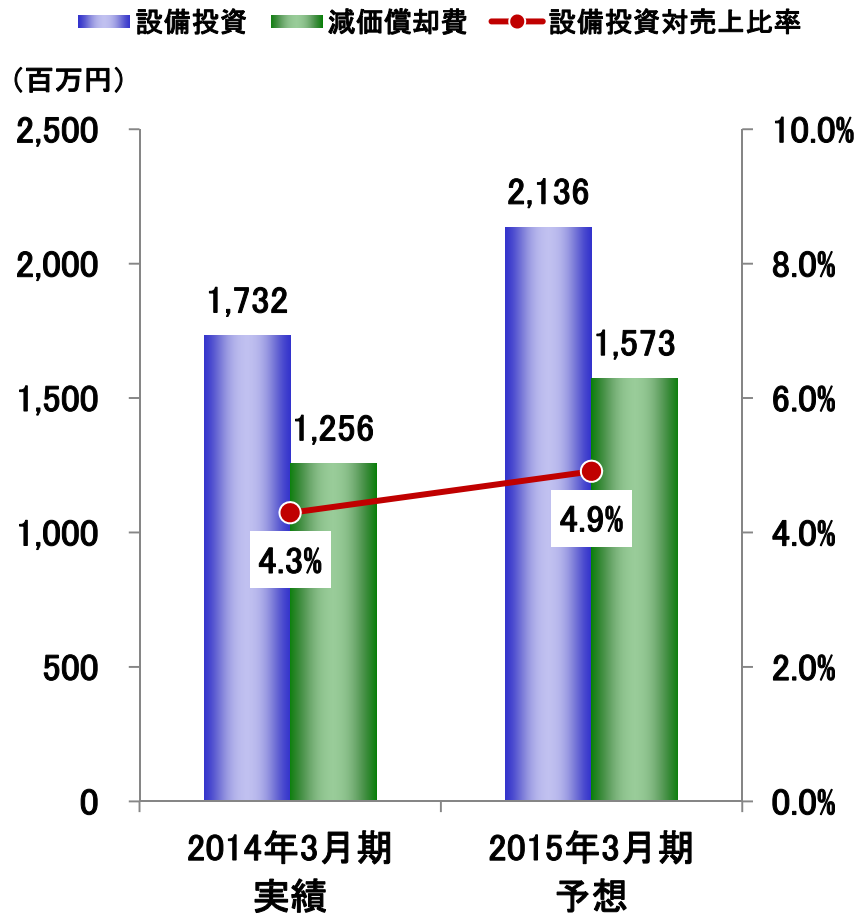
- SG、IP、TA各市場向けとも堅調な増加を見込む

アジア・オセアニア

- 中国で、IP、TA市場向けの大きな成長を見込む
- 新設した豪州、シンガポールの販売子会社による当該エリアでのシェアアップ

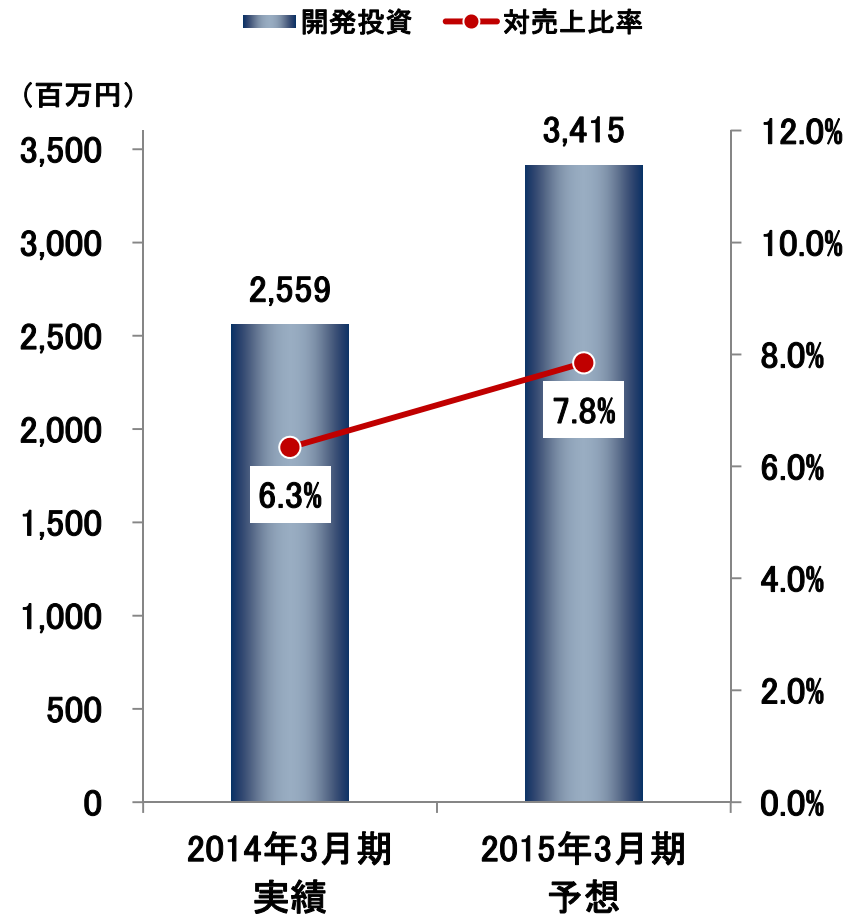
設備投資、減価償却、開発投資予想

【設備投資・減価償却費】



※ 設備投資金額には、自社製品・システム投資を含んでおります。

【開発投資】

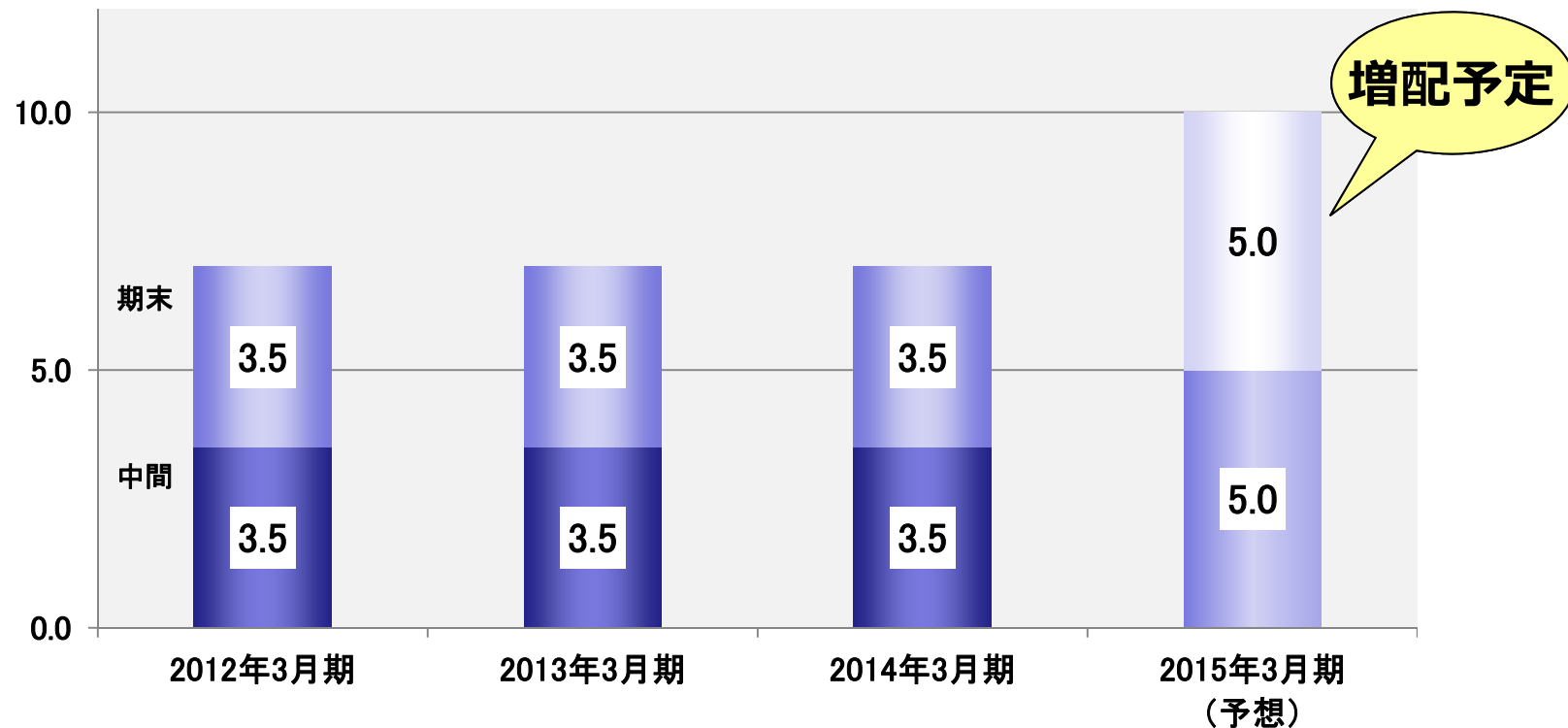


※ 上記の金額は、研究開発活動に係る費用の総額を示すもので、既存製品の改良、応用等に関する費用が含まれております。

各会計年度の販管費における「研究開発費」は、14/3期1,245百万円、15/3期1,298百万円です。

配当予想

株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策と位置付け、業績の成長に見合った成果の配分を、安定的かつ継続的に行っていくことを基本方針としております。



(注) 2012年4月1日付で1 : 200の株式分割をしております。
上記グラフでは、過去との比較を容易にするため、株式分割を考慮して表記しております。

- ❖ ミマキエンジニアリングご紹介
- ❖ 2014年3月期 連結業績
- ❖ 2015年3月期 連結業績予想
- ❖ **中期戦略**
- ❖ ご参考資料

→ 中期プロジェクト“M500”の2年目にあたる2015年3月期は…

■ 連結売上高500億円を見据えた経営の基礎固め

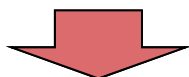
- 産業用途のデジタル・オンデマンド生産の提案を強化し、IP、TA市場をSG市場に並ぶ第2，第3の柱とする。
- 生産と販売の連携を強化し、**在庫管理を徹底**
- **地域密着型営業**をグローバル展開し、市場と顧客を創出
 - 昨年度に立ち上げた海外子会社を強力バックアップし、当該エリアをシェアアップ
- 開発体制の強化
 - 製品開発ステップの設計審査ルールを厳格化し、設計品質を向上
 - 要素技術開発を製品開発に先行して行い、**開発期間と開発コストを削減**
 - 当社独自の**3Dプリンタ開発**
- 生産体制の強化
 - 調達から出荷までを一気通貫で管理する生産体制の構築
 - 年度目標値を定め、製造コストダウンを推進

“地域密着型営業”の推進

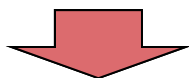
➤ 顧客ニーズを汲み上げるための日本国内での取り組み

担当地域を細かく分け、

- 営業マンが**地域に密着**し、自らの足でお客様をこまめに訪問
- 故障・トラブルなど、お客様の“困った”に迅速に対応



地道でアナログな方法だからこそ、
お客様との**強い信頼関係**が築ける。



お客様の**現場、現物、本音**から
得られる情報を基に、

- お客様へ新たな用途を提案
- 次なる新製品を開発企画



● 販売・保守サービス：13拠点22グループ制

“地域密着型営業”の世界展開

国内での取り組みを世界で



グローバル化とは、**地勢的な広がり**だけでなく**多様性の広がり**
国内での取り組みをグローバル展開し、**多様性への対応を強化**

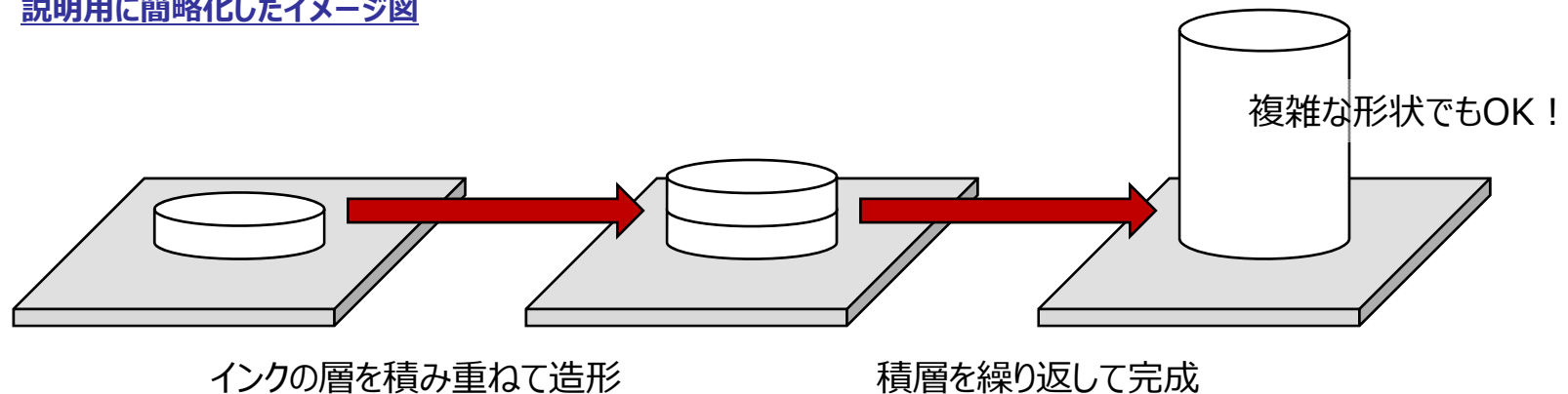
➤ 開発プロジェクト発足（2014年2月）

UV硬化インクジェット技術の開発成果として取得した特許を活かして、
インクジェット技術を造形用途に応用する3Dプリンタの開発に着手

➤ 保有特許について

UV硬化インクを用いてインクを積層し、所定形状の積層体を形成する3次元対象物形成装置
及び3次元対象物形成方法に関する発明

説明用に簡略化したイメージ図



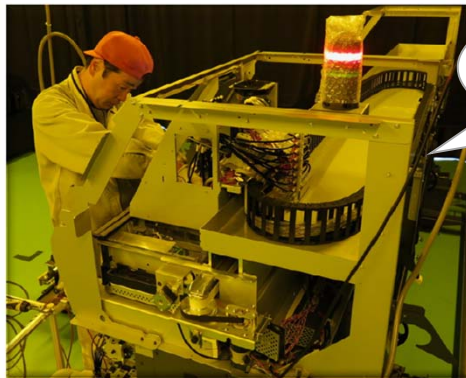
発明の名称：3次元対象物形成装置及び3次元対象物形成方法（2009年12月 特許第4420685号）

コストダウンの推進

- **国内生産** 高機能な上位機種
 - **中国生産** エントリーモデル
(台湾では主にインクを製造)
- 品質とコストのバランスを取りながら、
住み分けて生産
- 為替変動を考慮しながら、海外生産比率、
海外調達比率を高めてコストダウンを推進

国内ものづくりへのこだわり

コスト力では海外生産にかなわない
→ 海外では作れない付加価値の高いものを日本で作る

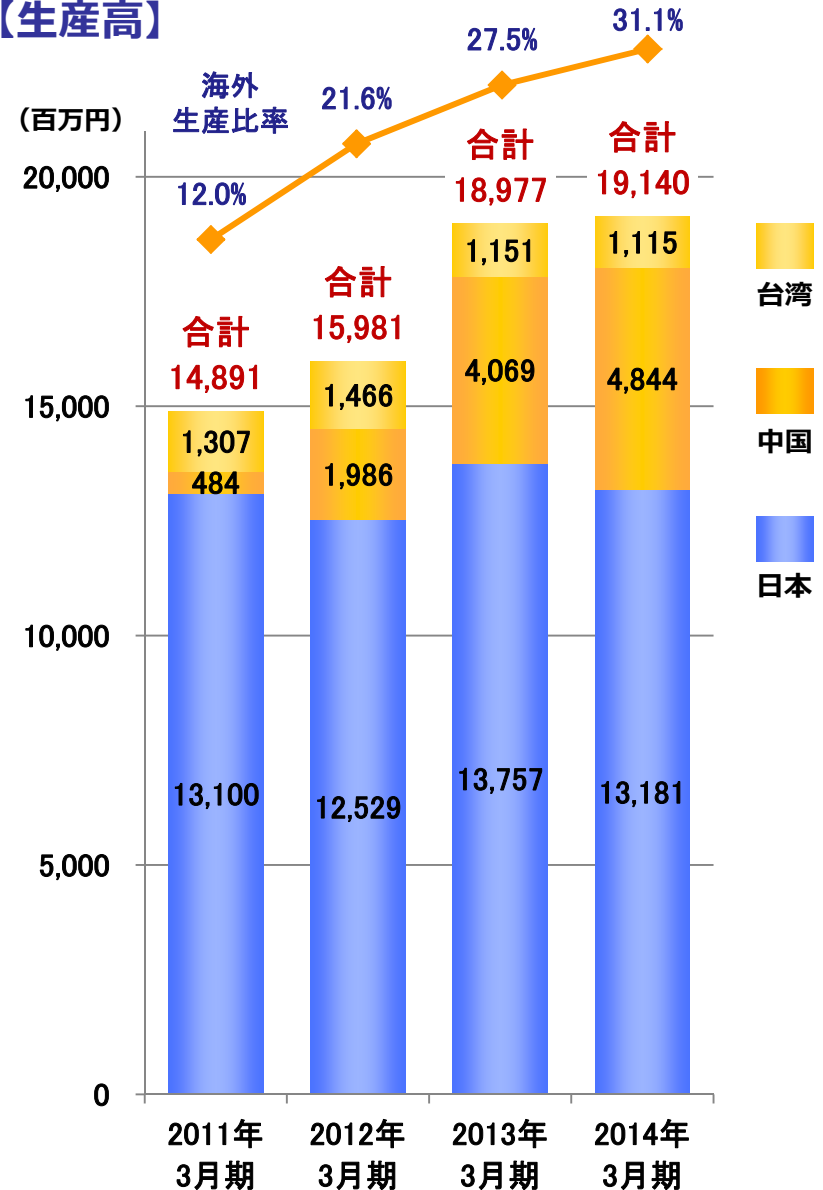


1台1,000万円以上の
500シリーズの製造現場

高い製造技術レベルが
付加価値を生み出す

↓
**開発と生産が一体
となり競争力を生む**


【生産高】



- ❖ ミマキエンジニアリングご紹介
- ❖ 2014年3月期 連結業績
- ❖ 2015年3月期 連結業績予想
- ❖ 中長期戦略
- ❖ **ご参考資料**

プロフィール

Mimaki®

設立	1975年8月	 <p>長野県東御市</p>
資本金	2,015百万円	
連結売上高	40,362百万円 (2014年3月期、うち海外売上高構成比 74.0%)	
本社	長野県東御市滋野乙2182-3	
代表者	代表取締役会長 池田 明 代表取締役社長 小林 久之	
従業員数	連結：1,202名 / 単体：617名 *2014年3月末現在	
グループ会社 (計15社)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 販売関連：9社 <ul style="list-style-type: none"> 欧州：ミマキEUROPE(オランダ)、ミマキドイツ 北米、中南米：ミマキUSA、ミマキブラジル アジア・オセアニア：上海御牧、ミマキインドネシア、ミマキシンガポール、ミマキオーストラリア、ミマキインド ・ 開発、製造関連：5社 <ul style="list-style-type: none"> 国内：(株)ミマキプレシジョン、(株)ウィズテック 中国：浙江御牧、平湖御牧 台湾：台湾御牧 ・ プリントサービス関連：1社 <ul style="list-style-type: none"> 国内：(株)グラフィッククリエーション 	
上場市場	東京証券取引所 JASDAQ市場 (スタンダード) / 証券コード 6638	
発行済株式総数	13,920,000株 (単元株 = 100株) *2014年3月末現在	

1

独自技術を保有し、自社ブランド製品を世界に供給する「**開発型企业**」を目指します。

2

顧客に満足いただける製品を素早く提供する**小回りの利いた会社**を目指します。

3

市場に常に「**新しさと違い**」を提供する**イノベーター**を目指します。

4

各人が持っている**個性・能力を力一杯発揮**できる**企業風土**を目指します。

本資料に関するお問合せ先

株式会社 **ミマキエンジニアリング**
IR部

TEL 0268 (64) 2281

E-mail mimaki-ir@mimaki.jp

〔本資料お取扱い上のご注意〕

本資料は、株式会社ミマキエンジニアリング(以下、当社)を理解いただくため、当社が作成したもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。